

☆さくらっ子ノートだより☆

○さくらっ子ノートについて

本校では、さくらっ子ノート（自主学習）に取り組んでいます。毎年、さくらっ子ノートコンテストが行われ、入賞した児童のノートは大変立派で模範となるものです。一方で、個人面談やお子さんの意見として「なにをやっていいかわからない」「簡単なものやってパッと終わらせてしまう」という声が聞こえてきます。そこで、こちらのお便りを参考に、おうちの方にもご協力いただき、学校全体で更なるさくらっ子ノートのレベルアップに取り組んでいければと考えています。よろしくお願いします。

○自主学習を何のために取り組むか

そもそもなぜ自主学習をやるのか、これがはっきりしないと子供たちも「なんでやらなくちゃいけないんだろう」と思うかもしれません。自主学習の目的は、

「一人で勉強することができる力を身につけるため」です。ここでいう勉強とは、計算や漢字、というもののだけでなく、「自分にとって必要なもの」です。例えば「理科のテストがあるから、内容を復習しよう」「二重跳びを今年こそできるようにになりたい。二重跳びのポイントや練習の方法を調べて挑戦しよう」「ニュースで「梅雨入り」という言葉を聞いた。よくわからない言葉だから調べよう」などなど、さまざまです！そして、卒業後の中学校では、定期テストがあります。小学校段階でしっかりと**学習の習慣・勉強の仕方**を身につけ、自分で勉強ができる子を育てていきたいと考えています。

○さくらっ子ノートのレベルアップのために！

5つのポイントを載せさせていただきますので、お時間ありましたら、お子さんのノートを見ていただきアドバイスをお願いします！

・自分の考えを書く

- ・ポイント・大切なこと・注意点などの書きこみ
- ・図やイラスト・線でかこむ・矢印や線でつなげる
- ・余白が多くならないようにする
- ・丁寧に書く

○ノートの使い方の例（見開きの場合）

※あくまで例ですので、レイアウト、教科は自由に行ってください。

○4 分割

漢字練習	理科や社会
算数	日記や調べ学習

○6 分割

漢字練習	社会
算数	調べ学習
理科	日記

左側を半分、右側を3つに分けるなども OK！

小学校 1・2年生

基本的な学習習慣をきちんと身につける



学習時間の
めやす

20~30分



育ちや学びの特徴

- 一人で学習の内容や方法を決めることはまだ無理です。家族の手助けが欠かせません。
- 「やったね!」「できたね!」などの褒め言葉が学習意欲を高めます。
- どんなことにも興味や関心を持ちます。様々なことを吸収する時期です。
- 基本的な生活習慣が身につくと、学習の習慣も身につきます。



保護者の関わり方

- 宿題に取りかかる前に、勉強する場所の整理整頓や、宿題をするのにふさわしい環境づくりを心がけましょう。テレビを見ながら、ゲームをしながらなどの「ながら勉強」にならないようにしましょう。また、毎日決まった場所（親の目の届くところ）で取り組めるようにしましょう。
- 学校から出された今日の宿題や、お手紙などのプリント類を一緒に確かめましょう。
- 時間を決めて宿題に取り組めるようにしましょう。最初のうちは集中力が続かない子どもも、時間を意識させて取り組ませることがメリハリのある家庭学習につながります。
- 鉛筆の持ち方やノートの使い方についても、正しくできるよう声をかけましょう。



家庭学習宣言 3か条

ここが大事!

1

学習の見届けをします!

「宿題はさいごまでやる!」という習慣を身につけさせましょう。そして、最後までやったかどうかを必ず家族で見届けましょう。根気強く働きかけることが大切です。

2

家族の一員として家事をさせます!

子どもたちにも家事を分担させましょう。家事も家族の一員として大切な仕事。責任感を育むとともに、学習に必要な持続力、集中力、根気なども養われます。

3

大人が子どものよいお手本になります!

大人がお手本となるような「学ぶ」姿勢を見せましょう。子どもたちは大人のうしろ姿を見て育つもの。家族ぐるみでよい学習習慣づくりに努めてみましょう。



小学校3・4年生

自ら学習に取り組む姿勢を身につける



学習時間の
めやす

40~50分



育ちや学びの特徴

- 自立心が芽生え、自分でやろうとすることが多くなりますが、まだ手助けが必要です。
- 好奇心が旺盛で、行動範囲も広がります。
- 集団での行動を好むようになり、少しずつ口答えや反抗が見られるようになります。
- 家族の温かい励ましの言葉がやる気を起こし、心の安定を育みます。



保護者の関わり方

- 宿題に取り組む前に、宿題をするのにふさわしい環境づくりを意識させましょう。本人が集中できる環境づくりができるようアドバイスしましょう。また、決まった場所（親の目の届くところ）で取り組ませましょう。
- お手紙などのプリント類は、本人が保護者に渡すように習慣づけましょう。
- 今日の宿題を自分で確かめさせ、時間や目標を自分で考えさせるようにしましょう。
- 1・2年生のときと比べ、学校で学習する教科が増え、学ぶ範囲も大きく広がる時期です。学校の授業や友達との関わりを話題とする「家族の時間」を大切にしましょう。



家庭学習宣言 3か条

ここが大事！

1 宿題以外の学習にも挑戦させます！

学校から出された宿題だけでなく、宿題以外の自主的な学習にも積極的に取り組ませ、家庭学習のレベルアップを図りましょう。家事の分担も大切な学習です。

2 テレビやゲームは、時間を決めます！

テレビやゲーム、スマートフォンなどに夢中になり始める時期。だからこそ、家庭でルールと時間を決めましょう。大人の姿勢も大切です。家族も協力をしましょう。

3 「がんばり」を本気でほめます！

学習の理解度に少しずつ差が出始める時期。子どもは兄弟や友達との比較を気にします。他の子と比べず、本人の「がんばり」を本気で褒めましょう。



小学校5・6年生

自ら計画を立て学ぶ習慣を身につける



学習時間の
めやす

60~70分



育ちや学びの特徴

- 自分を客観的に見つめたり、友達と自分を比べたりようになります。
- 自主性が育ち、考える力も大人並みになり、時には大人への反抗も見られます。
- 大切にされているか、周りに認められているかなど、大人の評価が気になります。
- 得意・苦手な教科を意識し始めます。周囲のアドバイスで興味・関心が大きく左右されます。



保護者の関わり方

- 宿題をするのにふさわしい環境づくりができるよう見守りましょう（親の目の届くところで取り組ませましょう）。ただ、大人からの「まだ宿題はやらないの？」はかえって逆効果になることもあります。本人の「やる気」を育てるように心がけましょう。
- 勉強する目的や勉強方法に悩み始める時期。子どもの将来の夢や目標を話題にして、努力することの大切さを伝えましょう。時には、親が自分の経験談や失敗談などを話題にしてあげましょう。



家庭学習宣言 3か条

ここが大事！

1 内容、時間を決めて計画的に取り組ませます！

習い事など、放課後をあわただしく過ごす子どもも多く見受けられます。その日の予定を見通して、内容や時間を考えた計画的な家庭学習にしましょう。アフタースクールに参加している場合は、アフタースクールで身につけた学習習慣を生かしましょう。

2 もう一度生活習慣の見直しをさせます！

高学年になるにつれ、生活リズムが崩れがちになります。中学校生活で大きく生活リズムを崩さないためにも、高学年のうちにもう一度、早寝早起き、朝食を食べる、テレビやゲーム、スマートフォンの時間を決める、といった生活習慣を見直しましょう。

3 最後まであきらめず、ねばり強く取り組ませます！

宿題に取り組むだけではなく、学校での授業を振り返り、自主学習ノートなどを使って、その日の授業の復習に取り組むようにアドバイスしましょう。苦手な教科や内容でもあきらめずに、ねばり強く取り組ませましょう。

